

「さいたま未来トーク」

さいたま市の未来について、

みんなで話し合ってみませんか？

＜市民ワークショップ結果報告書＞



平成28年3月

《目次》

1. 市民ワークショップ開催目的とプログラム・・・・・・・・・・ 1
2. 講演の概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3
3. グループワークの結果・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4
4. 参加者アンケートの結果・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 20



1. 市民ワークショップ開催目的とプログラム

(1) ワークショップ開催の目的

- 本市では市政運営の最も基本となる計画として、平成 32 年度を目標年次とした「さいたま市総合振興計画」を策定し、総合的かつ計画的なまちづくりを進めています。
- こうしたまちづくりを進めていくに当たり、「将来のさいたま市をどういうまちにしていきたいか」「その中で自分たちができることは何か」など、10 年後、20 年後のまちづくりの中心的な役割を担っていただける若い世代の皆様から、ご意見やアイデアをいただき、今後のまちづくりに活かしていくため、「市民ワークショップ」を開催しました。

(2) プログラム

- まず全員でオリエンテーションを行い、次に講演をいただいた後に、グループごとに分かれて話し合い、最後に、話し合った結果を発表しました。

① 午前の部 [10:00~12:00]

時間 (目安)	内容
9:30~	受付・案内 (受付の案内にしたがってグループ別にご着席ください)
10:00 ~10:30	開会・オリエンテーション (1) 本日の流れの説明 【15分】 (2) 総合振興計画についての説明 【15分】
10:30 ~11:15	講演1 テーマ「若い力によるまちづくり～実践を通じて」 越智田晃氏 (株式会社ジョイプロジェクト代表取締役社長)
11:15 ~12:00	グループワーク1 (1) 自己紹介 ➢ グループごとに、自己紹介をします。(おところ、お名前、参加動機など。おひとり1~2分くらい) (2) 話し合いテーマ①「さいたま市の良いところ・改善が必要なところ」 ➢ グループごとに、さいたま市の良いところや優れているところ、改善が必要なところについて話し合ってみましょう。
12:00 ~13:00	休憩 注) 当日の昼食は、各自でおとりください。

② 午後の部 [13:00~16:30]

時間（目安）	内容
13:00 ~13:15	講演2 テーマ「さいたま市への想い」 坂口彩氏（女優・元さいたま観光大使）
13:15 ~15:40	グループワーク2 (1) 話し合いテーマ②「2030年のさいたま市をどういうまちにしたいか」 ➢ テーマ①の意見のうち特に「さいたま市の良いところ」を活かして、将来（概ね10~20年後）のさいたま市をどういうまちにしたいかについて話し合ってみましょう。（将来のさいたま市のキャッチフレーズ、これから特に力を入れていきたいこと、など） (2) 話し合いテーマ③「私たち自身ができることは何か」 ➢ テーマ②で話した将来のさいたま市の実現に向けて、一人のできることに、何人かが力を合わせてできること、大勢の人が力を合わせてできることについて話し合ってみましょう。 （グループごとに、適宜、休憩をとってください）
15:40~ ~16:00	情報共有（発表）
16:00~	意見交換
~16:30	閉会



2. 講演の概要

(1) 講演1 テーマ「若い力によるまちづくり～実践を通じて」

越智田晃氏（株式会社ジョイプロジェクト代表取締役社長）

- 喫茶店を継ぎ、商店街で活動を始めたのがきっかけで、まちづくりに携わるようになった。
- 浦和でライトダウンプロジェクト、サッカーフェスタなどを企画・運営してきた。市内には優秀な人材がたくさんいて、異業種の人と協力し合いイベントを企画している。
- まちづくりには、「若者・ばか者・よそ者」が必要と言われる。さいたま市のまちづくりは高齢層が中心で世代交代できておらず、若者が入って来づらいので、中間になる人が重要。
- さいたま市には何でもあって、大災害がなく安全安心なまちというイメージがある。全国的に見て珍しいことに、子どもと子育て世代が増えている地域もある。
- 一方で、横の交通網が発達していないこと。家賃が高いため、商売が難しく経済が発展しないこと。教育にける予算が少ないこと。このような課題もある。
- さいたま市のまちづくりに最も欠けているのは危機感だ。
- 活力あるまちをつくるのは若者。子育てしやすいまちにするには、若い世代が声を上げていかなければならない。
- 近所で挨拶することから知り合いを作り、まちに愛着や誇りを持って生活できるとよい。
- 協働のまちづくりはなかなか難しいが、市民も企業もそれぞれができることを無理せずに行うことが大事。色々な人が集まり連携してまちづくりをしていければよい。
- 話すだけでなく、思いついたことを実践することが大事。良いことをしようとしても続かないので、自分が楽しいと思えることや興味のあることから始めてほしい。

(2) 講演2 テーマ「さいたま市への想い」

坂口彩氏（女優・元さいたま観光大使）

- 大学進学を機に移り住み、さいたま市が大好きになった。ほどよい田舎感があって落ち着くところがよい。
- さいたま観光大使を務め、さいたま市の魅力をたくさん知ることができて、ますます好きになった。
- オールさいたま市ロケの映画を企画・制作し主演した際には、撮影時にご近所からの差し入れもあり、人の温かさを感じた。この作品は岩槻映画祭にも出品し、都内でも上映したことで、多くの方に「大宮盆栽」の魅力を伝えることができた。
- 今後もメディアを通して、“さいたま愛”を発信していきたい。

3. グループワークの結果

- 次のとおり5つのグループに分かれ、3つのテーマについて話し合いました。

★グループ分け

グループ1 (4名)	20代女性、20代女性、30代男性、40代男性
グループ2 (4名)	20代男性、30代男性、30代女性、40代女性
グループ3 (4名)	20代女性、30代男性、30代男性、40代女性
グループ4 (4名)	10代男性、20代男性、20代女性、40代女性
グループ5 (5名)	20代女性、30代男性、30代女性、40代男性、40代女性

★話し合いのテーマ

テーマ1 「さいたま市の良いところ・改善が必要なところ」

テーマ2 「2030年のさいたま市をどういうまちにしたいか」

テーマ3 「私たち自身ができることは何か」



グループ1の話し合い結果

《話し合いのポイント》

■テーマ1「さいたま市の良いところ・改善が必要なところ」

《良いところ》 ・教育レベルが高い ・交通の便が良い（東京に出やすい、首都高、新幹線） ・自然が多くある ・施設が多い（図書館・温泉・ショッピングセンター等） ・スポーツが盛ん	《改善が必要なところ》 ・地域の結びつきが希薄 ・子育て支援が充実していない（待機児童が多い、お金がかかる） ・病院の数が少ない、探しにくい ・大手法人が少なく、会社の数が少ない
---	---

■テーマ2・3「2030年のさいたま市をどういうまちにしたいか/私たち自身ができることは何か」

2030年のさいたま市について、「さいたまから発信！モデル都市～地域が創る医療・子育て・安全」というコンセプトを掲げた。これには、他の地域からの見本となるような都市にしようという願いと、ワークショップメンバーのそれぞれの問題意識（医療、子育て、安全教育）を、地域自身によって解決しようという意図を込めた。

また具体的に、個人、地域、行政でできることを以下のとおり考えた。

◎医療

《個人》 ・医療に関する情報収集（症状や地域の医療機関の場所など）	《行政》 ・高齢者同士、家族同士の介護について、いつでも相談できる仕組みづくり ・医療機関を探しやすいアプリや冊子、看板の設置
--------------------------------------	---

◎子育て

《個人》 ・子育て預け先や待遇制度の積極的な利用	《地域》 ・公民館や保健所、事業所などにおける一時預かりの開設	《行政》 ・子育てに必要な社員、パートを雇用した際の企業への補助 ・保育士の待遇改善、保育園の増加 ・商業施設や商店街での子育て世代への待遇向上
-----------------------------	------------------------------------	---

◎安全・防災教育

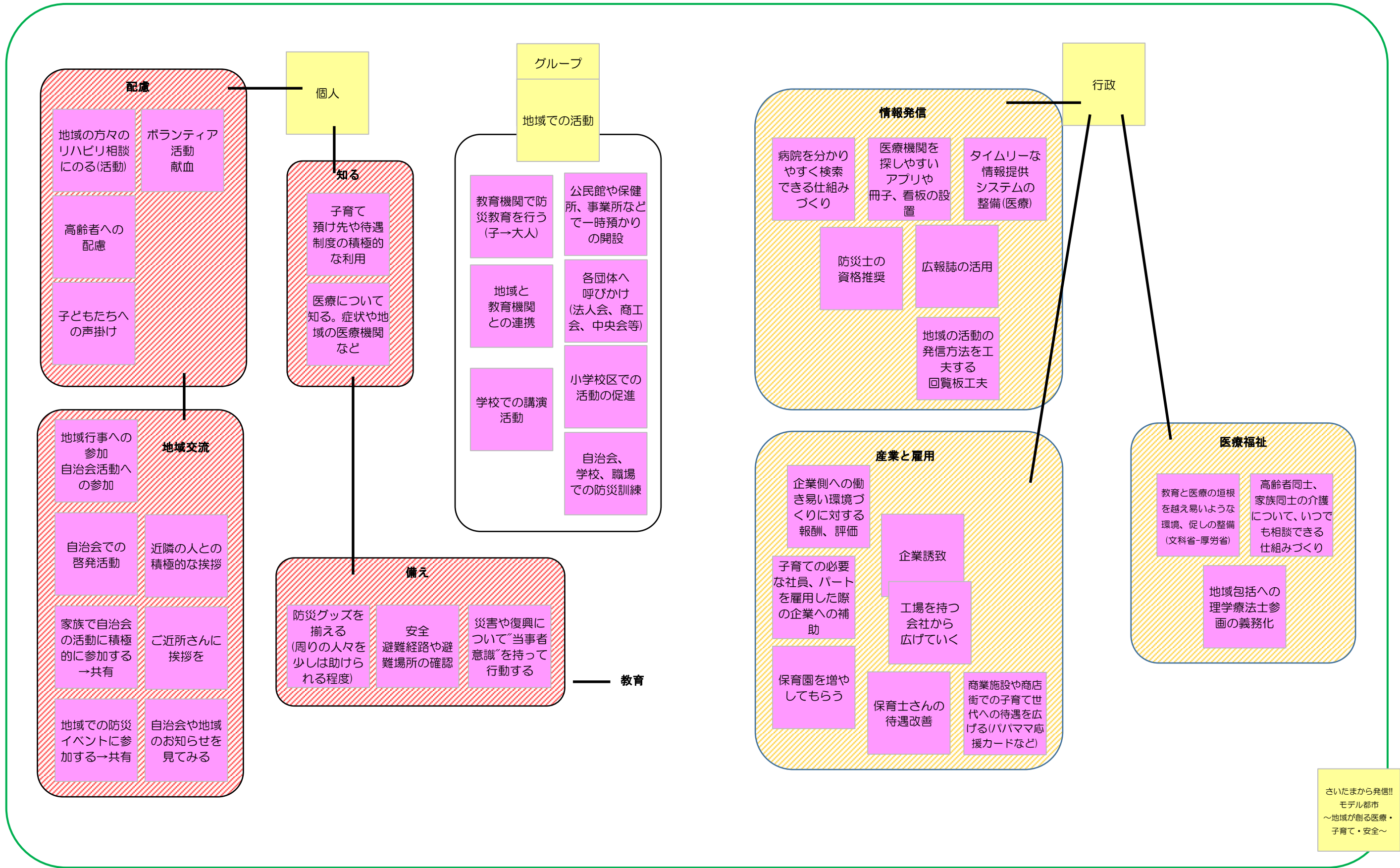
《個人》 ・防災グッズの準備 ・安全避難経路や避難場所の確認 ・地域での防災イベントへの参加	《地域》 ・自治会、学校、職場での防災訓練 ・教育機関での防災教育	《行政》 ・防災士の資格推奨
---	---	-------------------

グループ1の意見発表（テーマ1）

ピンク=良いところ
 ブルー=改善が必要なところ
 ※赤字のカードはテーマ2のコンセプト
 づくりで参考にしたもの。



さいたまから発信！！ モデル都市 ～地域が創る医療・子育て・安全～



さいたまから発信!!
モデル都市
～地域が創る医療・子育て・安全～

グループ2の話し合い結果

《話し合いのポイント》

■テーマ1「さいたま市の良いところ・改善が必要なところ」

《良いところ》 <ul style="list-style-type: none">・都内へのアクセスが良い・適度に都会・災害が少ない・若い世代が多い・子どもへの医療給付が充実している・自然が多い・盆栽や人形などの文化がある	《改善が必要なところ》 <ul style="list-style-type: none">・道が狭い・東西の交通網が整備されていない・保育園、学童が少ない・出産できる病院が少ない・公園が少ない・観光資源が少なそう
--	--

《まとめ》

ハード系(都市計画)：災害に強く、都市整備が進んでいるので便利。

人口のバランスが良く、子育てしやすい環境が整っている。

ソフト系(文化)：長く住み続けられる環境、文化がある。

教育環境が充実していて、子どもが進学によって地元を離れなくてよい。

■テーマ2・3「2030年のさいたま市をどういうまちにしたいか/私たち自身ができることは何か」

《2030年のさいたま市をどういうまちにしたいかのキーワード》

・特色のある街 ・誇れる街 ・代々住み続けられる街

⇒ キャッチフレーズは「愛したい街 さいたま市」

さいたま市を愛せるようになるために一人一人ができることを考えた。

◎個人でできること

- ・住んでいる街や地域の歴史や特色を知り、後世に残す・伝える。
- ・地域の取組に参加する ⇒ 顔見知りを増やして挨拶をする(つながりを持つ)
- ・住み続ける決意を持つ。(戸建てを建てる)

◎コミュニティの中でできること

- ・子どもに地域を知ってもらおう活動をする。
- ・子育て世代が集まってコミュニケーションを取る場所を作る。
- ・町内で子どもを見守る。
- ・家事や子どもの短時間預かりを近所のコミュニティで担い、子育てを相互に助け合う。
- ・働いている若い世代が参加しやすい休日などにイベントを開催する。

◎さいたま市にお願いしたい！

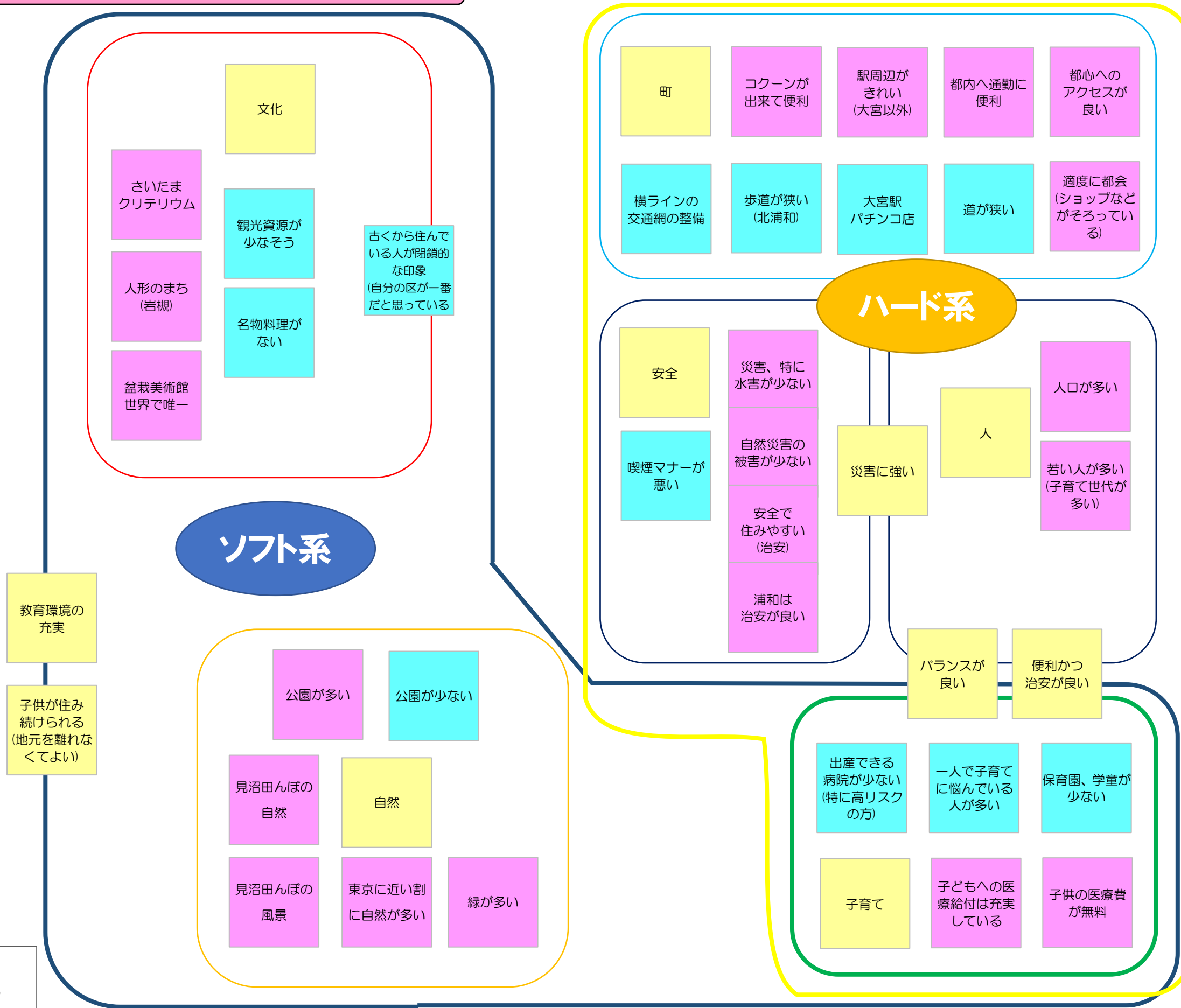
- ・企業誘致…住んでいる場所の近くで仕事ができる街に ⇒ 子育てがしやすい
- ・「さいたま市と言えば〇〇」と言える強力な長所や観光資源がほしい。
- ・市やコミュニティで開催されるイベントの告知方法を改善してほしい
⇒ 住民に有益なイベントも知られていない事が多い

グループ2の意見発表（テーマ1）

特色のある
ほこれる

代々住み
続けられる

街
さいたま市



ピンク=良いところ
ブルー=改善が必要なところ

特色のある

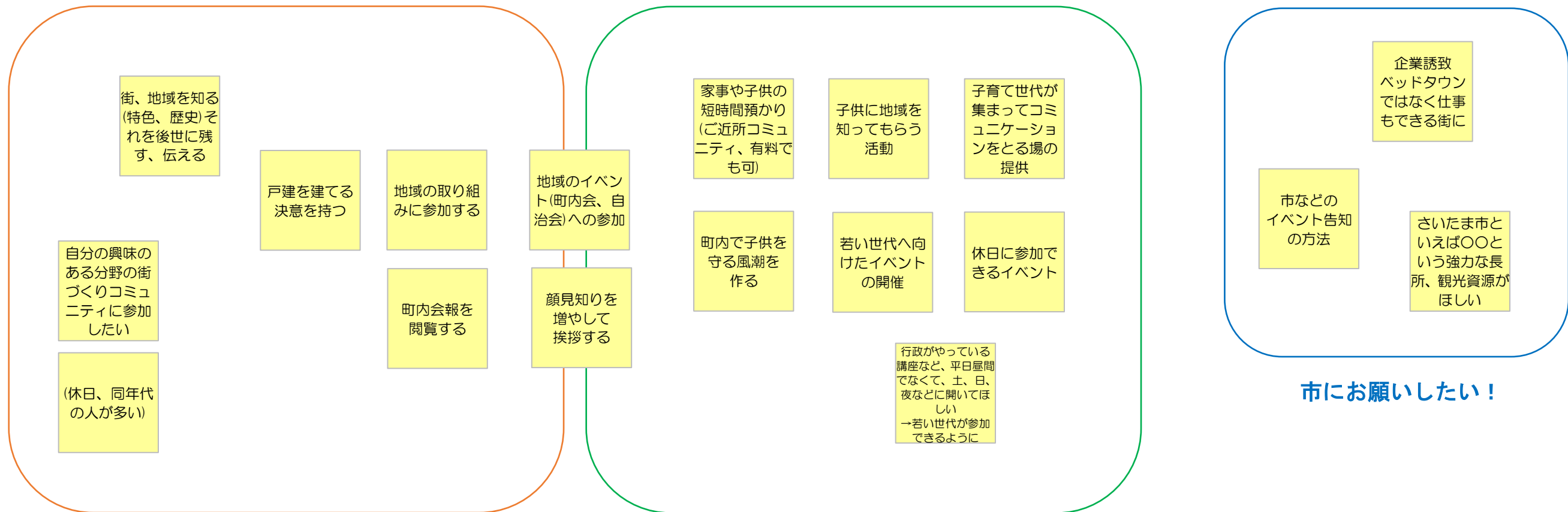
ほこれる

代々住み続けられる街

愛したい街 さいたま市

個人でできる

コミュニティー



グループ3の話し合い結果

《話し合いのポイント》

■テーマ1「さいたま市の良いところ・改善が必要なところ」

《良いところ》	《改善が必要なところ》
<ul style="list-style-type: none">• のびゆくイメージがある。市としては人口が増えており、若い人が多いという印象がある。家賃が手頃なのも影響している。• 広域交通が便利。特に南北方向への鉄道路線は充実している。浦和・大宮は都心への通勤にも便利。• 自然・歴史・スポーツなど、多様な資源がある。各地域（旧市単位）を見ても、例えば大宮の賑わいと盆栽、岩槻の歴史文化と農業など、個性があって良い。	<ul style="list-style-type: none">• 良いところがたくさんある。でも、市民にも市外の人にも知られていない。食の魅力などもあるが情報発信が下手なのではないか？「コレ」という目玉もほしい。• 地域交通は不便である。特に東西方向。駅周辺の交通拠点機能の向上や、コミュニティバスの有効活用が考えられないか。• 本当に子育てが便利なの？と感じることがある。人口が増えているのに、子育て施設、子ども医療施設が充足されていない。

■テーマ2・3「2030年のさいたま市をどういうまちにしたいか/私たち自身ができることは何か」

《2030年のさいたま市をどういうまちにしたいか！》

ありたいまちの姿を4つの視点に整理したうえで、キャッチフレーズを『**世代を超えて住み続けられる 人が集まるまち さいたま市を目指そう！**』と定めた。

◎さいたま市らしさを活かした、住みたいまち

さいたま市は東京じゃない。さいたま市らしさを活かして、住みたいまちを目指す。
(例) 都市と田園風景が共存した環境/都市の便利さと、ちょっと不便でも安心して暮らせる、生活基盤を置くには良い環境/単なるベッドタウンではない。東京都心にはない魅力の発信

◎若い人に選ばれる、子育てしやすいまち

若い人（特に若い社会人、子育て中の方）に選ばれる、子育て環境充実のまちを目指す。
(例) 女性が働きやすい環境/経済的な負担も少なく、安心して子どもを預けられる環境/子ども向けのカルチャーセンターや遊べる屋内施設など、魅力的な要素を増やして情報発信/大学を誘致すれば若者が集まる。集まった若者が定着すれば、育った人材も活かせる。

◎産業が元気で、人が集まるまち

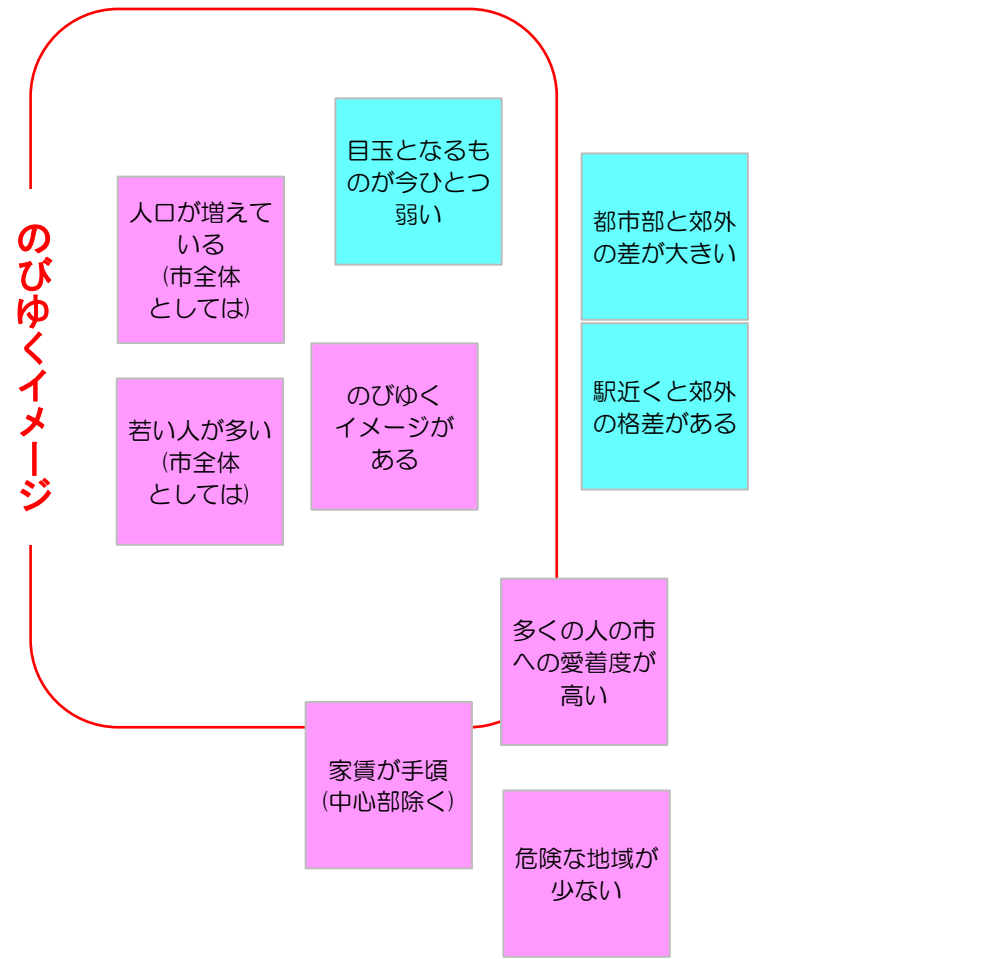
働く場は大切。産業が元気で、お祭りなど多様な文化が息づく、人が集まるまちを目指す。
(例) 先端的産業と伝統産業の共存/企業支援の充実/商店街に賑わいを取り戻す/地域らしいお祭りがもっとあって良い/若い世代と高齢者の交流が活発

◎均質化しない、各地域の良さを活かせるまち

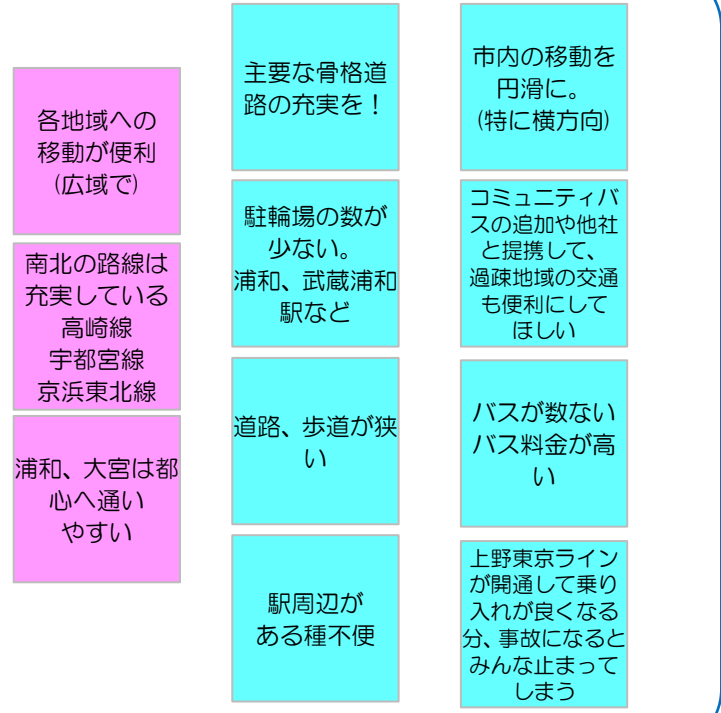
“さいたま市民”という意識の醸成も必要だろうが、地域のプライドも大切。各地域の良さを活かせるまちを目指す。
(例) 地域の特徴を活かし、伸ばすための取組/「浦和」「大宮」「岩槻」という各地域の魅力再発見と情報発信・PR。地元プライドをぶつけ合って新しいものを創出/行政機能の分散化

グループ3の意見発表（テーマ1）

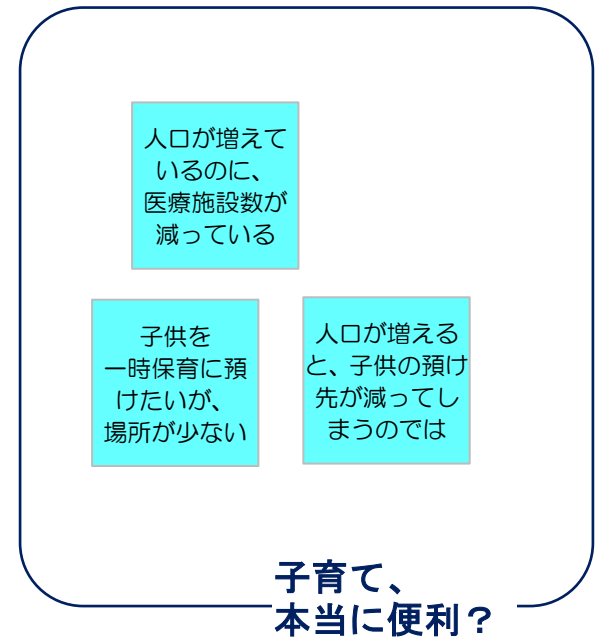
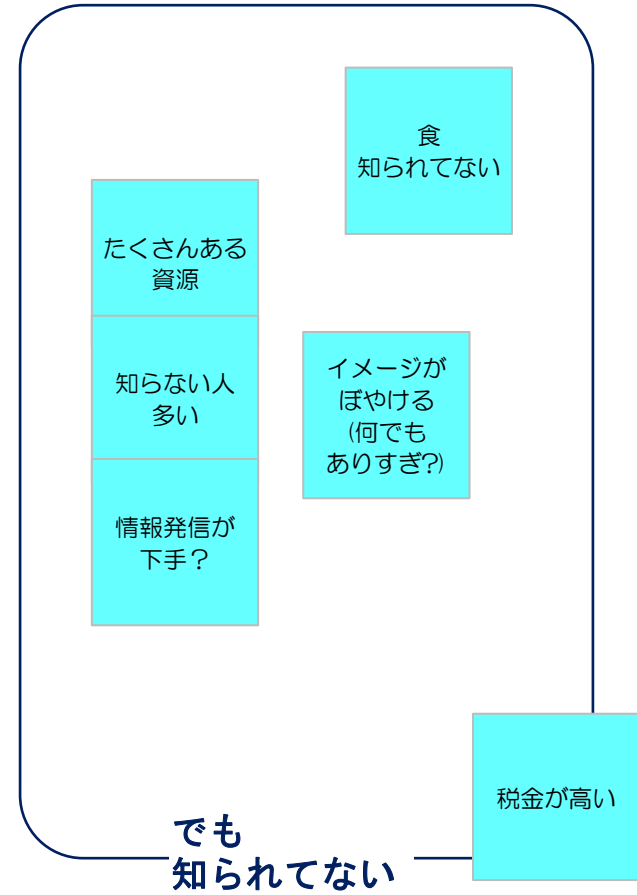
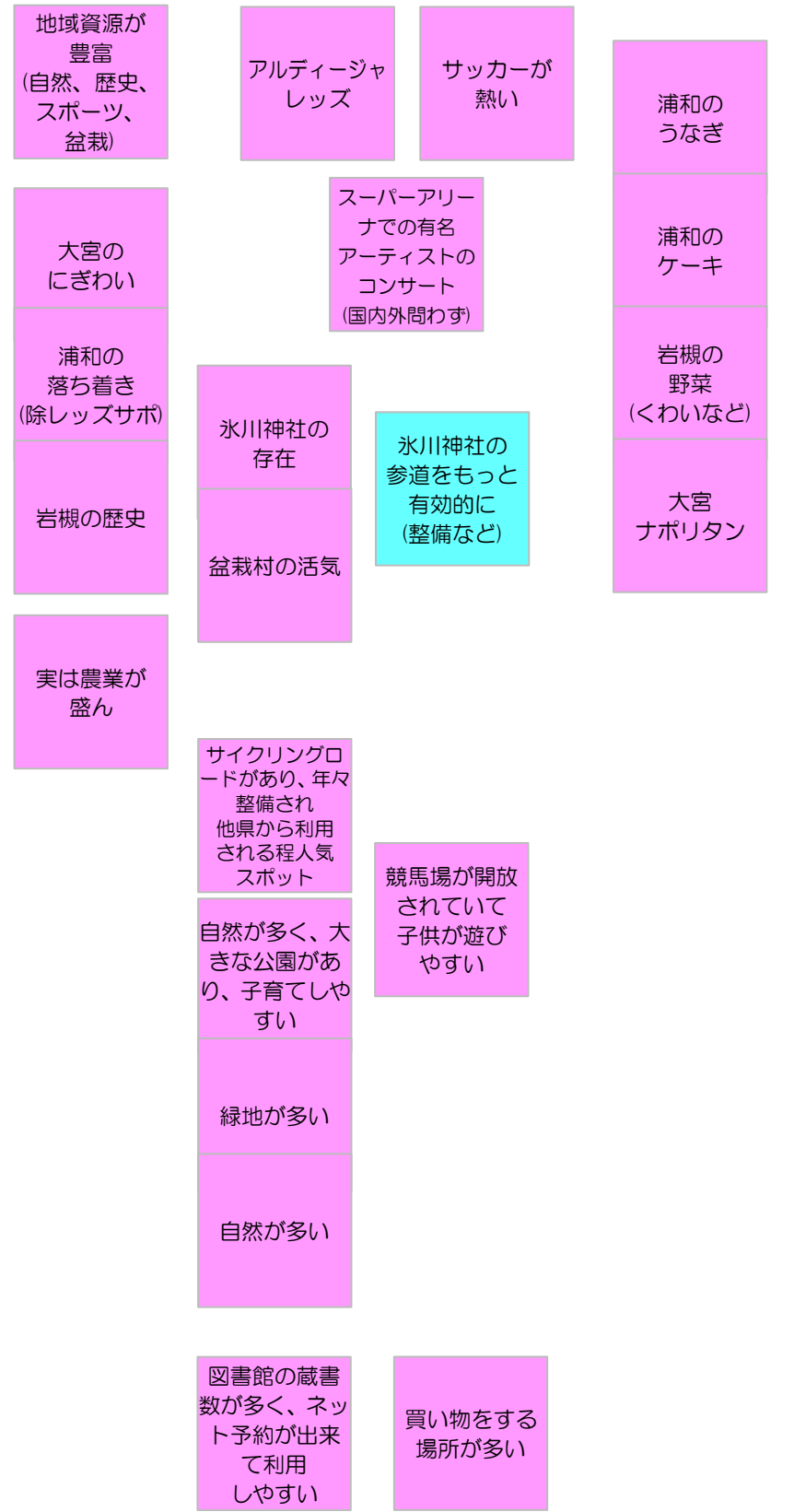
ピンク=良いところ
ブルー=改善が必要なところ



広域交通の便利さと
地域交通の不便さ



多様な資源



グループ3の意見発表（テーマ2・3）

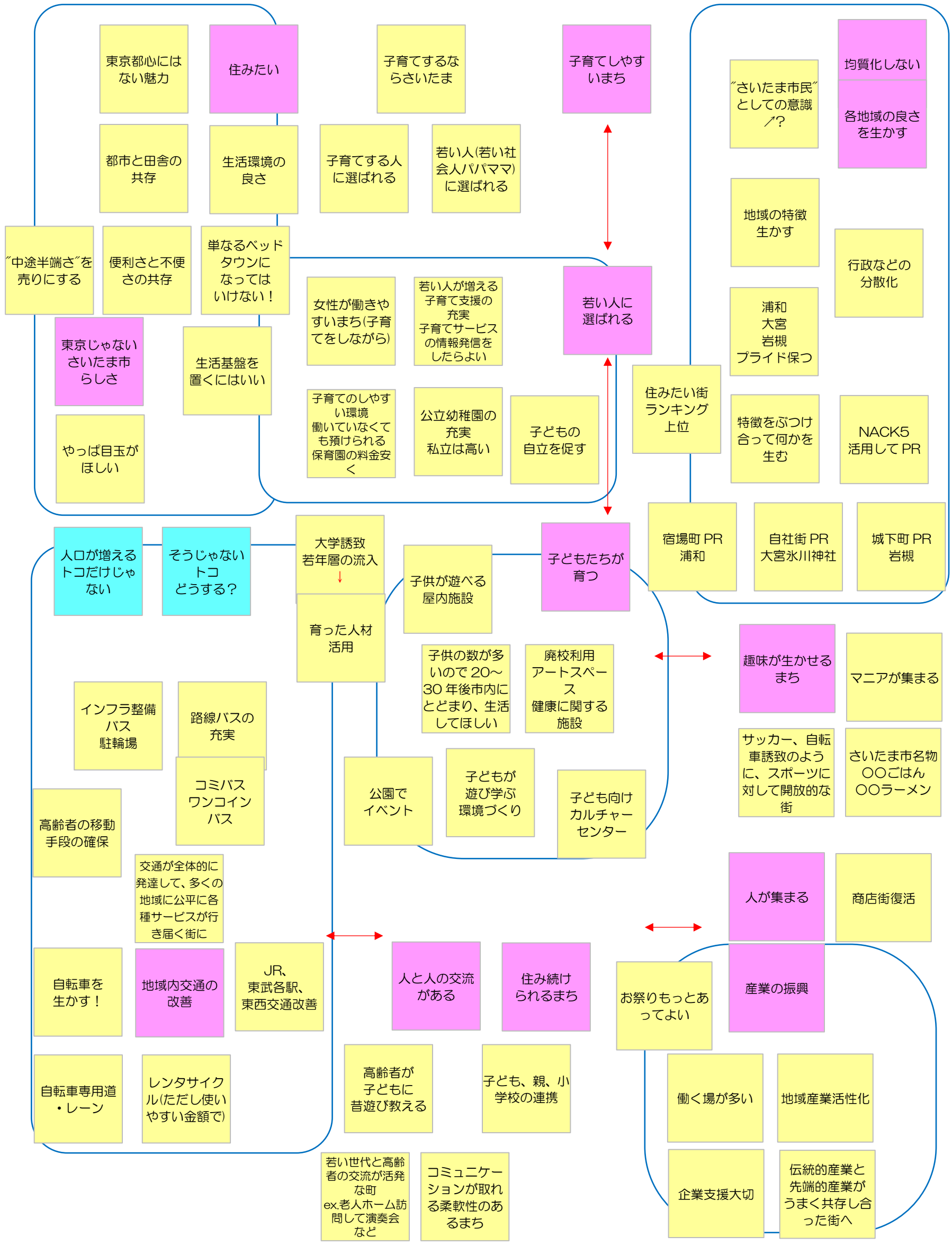


世代を超えて

住み続けられる

人が集まるまち

さいたまを目指そう！



グループ4の話し合い結果

《話し合いのポイント》

■テーマ1「さいたま市の良いところ・改善が必要なところ」

《良いところ》	《改善が必要なところ》
<ul style="list-style-type: none">・家族が安心して暮らせる、治安が良い。・自然が残されており、四季を実感できる。・交通の利便性が良い。・必要なものは何でも揃っている。・スポーツに力を入れている。・国際的なイベントを実施している。・多数の政府機関が設置されている。	<ul style="list-style-type: none">・公園が少ない。・自然はあるが、市街地から遠い。・東京へのアクセスは良いが、県内の横の移動が不便。・さいたま市ならではのものが少ない。・さいたま市民としてのアイデンティティがあまりない。・医療体制が整っていない。

■テーマ2・3「2030年のさいたま市をどういうまちにしたいか/私たち自身ができることは何か」

《2030年の目標》

小さな子どもからお年寄りまで笑顔があふれるまち

《目標の実現に向けたアイデア》

◎公園を増やす

遊具だけの公園ではなく、緑あふれる公園を増やしてもらいたい。
→子育て世代に優しいまちになるほか、高齢者や若者にとっても憩いの場となる。
→目玉になる公園があれば、さいたま市のイメージアップにつながる。
(例) 空き地を買い取って公園にする

◎アプリを使った情報発信

さいたま市のアプリを開発し、市民がさいたま市について知る機会を増やすことで愛着を持ってもらう。
(例) ごみ回収など一般的な市の情報/災害情報/市内のイベント情報/市内のお店情報/公共施設の予約・管理機能/スタンプラリーもアプリで管理/地元のお店で使えるポイント制度/市の情報以外(天気・ニュース)も配信/双方向のコミュニケーションができる意見箱

◎スポーツを盛んにする

サッカーチームが2チームある強みを最大限に活かす。また、ただ観戦するだけでなく、市民がスポーツに参加できる機会や環境を充実させる。
(例) サッカーのまちとしてPRする/選手やOBに部活等で指導してもらう/スポーツ施設をもっと気軽に使えるようにする/区で競うさいたま市運動会の開催

《一人一人にできること》

地元のイベントや災害訓練に参加したり、近隣に住む高齢者に声を掛けたりすることで、地域での交流の機会を増やし、安全なまちにする。このほか、普段からさいたまで生産された食材や物品を積極的に選び、それぞれがSNSなどで情報発信していく。

グループ4の意見発表（テーマ1）

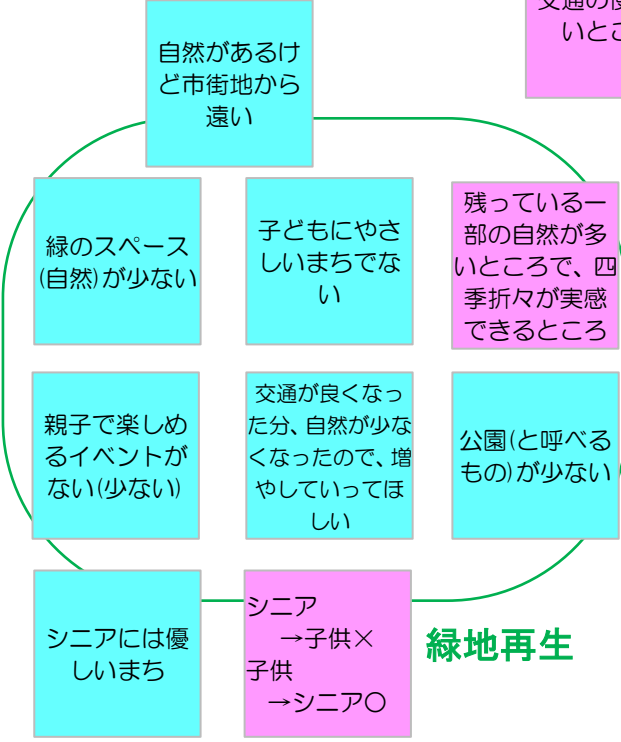
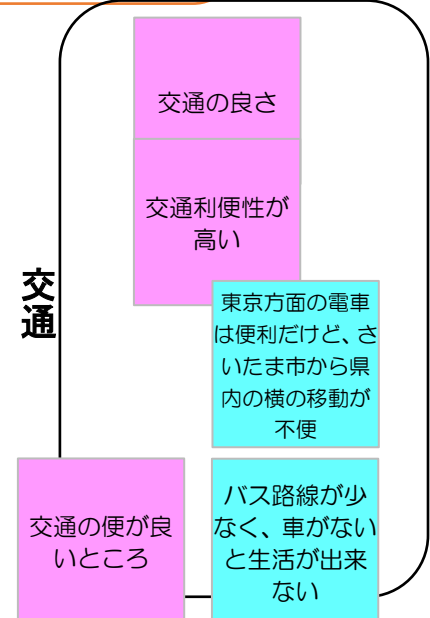
家族が住みやすい町



小さい子どもからお年寄りまで笑顔があふれるまち

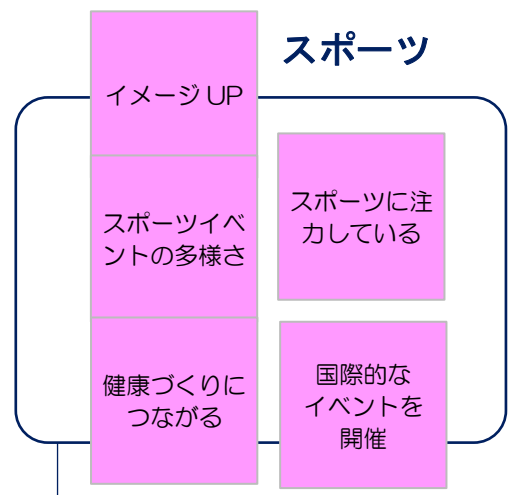
目標 2030年

東京に行かなくてもある程度のものが揃う
不十分な医療体制

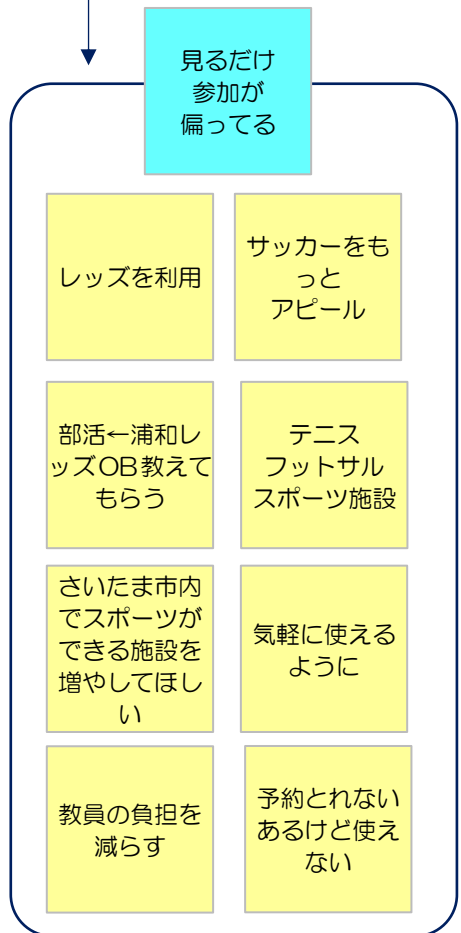


遊具だけの公園ではなく緑あふれる公園を増してほしい
自然の多い緑の公園 子どもにやさしいまち
関東(日本でも)有数の緑、公園で有名な街になることはさいたま市のイメージアップにつながる
自然があふれる町
市が空き地を買い取る → 公園などへ
市民の意識 みんなで子育て
学校 子供の遊び場

スポーツ

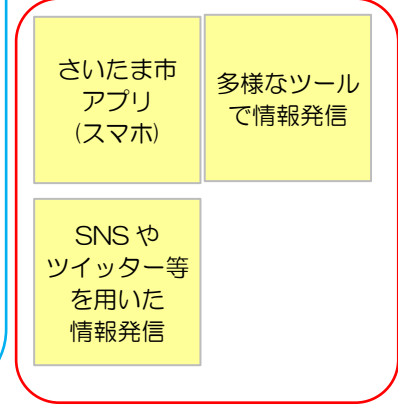


さいたま市民の増加
東京 有名な大学集まっている

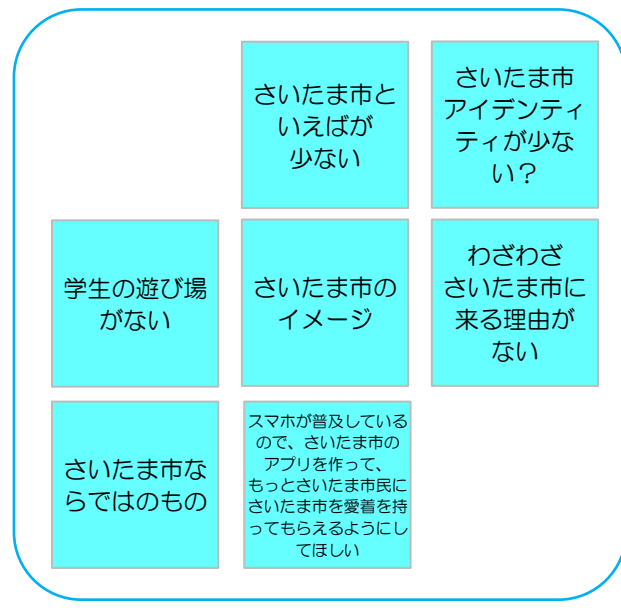


ピンク=良いところ
ブルー=改善が必要なところ

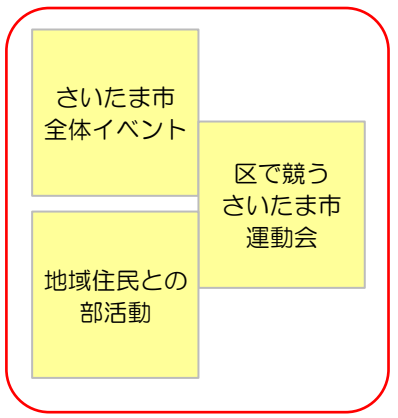
PR

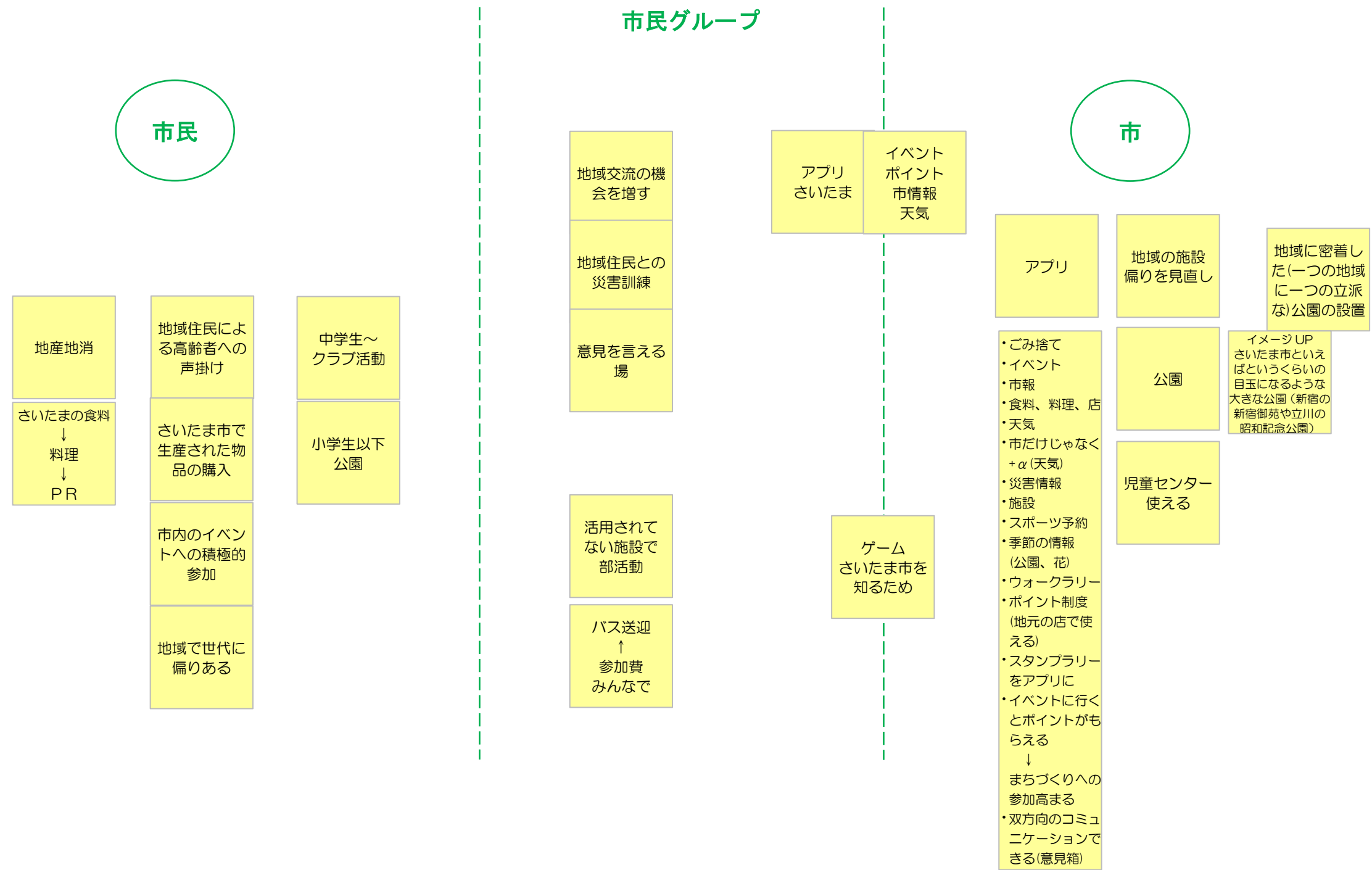


さいたま市のイメージ



地域のつながり





グループ5の話し合い結果

《話し合いのポイント》

■テーマ1「さいたま市の良いところ・改善が必要なところ」

《良いところ》	《改善が必要なところ》
<ul style="list-style-type: none">・商業施設が充実していて生活しやすい。・鉄道での移動が便利。・スーパーアリーナやスタジアムなど施設が整っている。・子育て支援が充実している。	<ul style="list-style-type: none">・大きな駅だけ栄えている。・街灯が少ない。・バスのルートや本数が少ない。・歩行者にやさしい道路（歩道）になっていない。・公園が少ない。・公立教育にムラがある。

■テーマ2・3「2030年のさいたま市をどういうまちにしたいか/私たち自身ができることは何か」

《2030年のさいたま市をどういうまちにしたいか！》

2030年のさいたま市について4つの街の姿を挙げ、一人一人ができることを考えた。

◎にぎやかな街☆人が来たくなる街

街中に空いた土地が増えているので、よりにぎやかな街にしたい。

(例) 魅力的なふるさと納税/公営カジノや第2のUSJをつくる/独自の祭りや温泉、地酒で国内外から人を呼ぶ/こだわりの店がある若者向けのまちづくり

◎一人一人の子どもに合った教育ができる街

一人一人に目を向けて、その子に合った教育ができるようにしたい。一方で、勉強やサッカーなどのスポーツで特徴のある学校をつくりたい。

(例) 幼保小連携/少人数教育/公開学習

◎人に優しい街(心のバリアフリー)

歩行者が歩きやすく、バスでの行き来がしやすいようにしたい。また、コミュニティのつながりを深めて、子どもや高齢者、障害者が安全に安心して暮らせるようにしたい。

(例) バリアフリーの街/子どもの色々な体験機会/子育て親同士の交流/病児保育/循環バスの運行/自由に遊べる公園

◎東京に依存しない街

将来的には、東京や横浜をライバルに、自信を持ったまちにしていきたい。インフラだけでなく中身も伴った都市とする。

(例) さいたま版山手線「環状鉄道」(大宮—美園—東浦和—蕨—戸田—西浦和をつなぐ)で東西の交通を補い、周辺市も活性化/企業誘致/法人税収増と住民税減/観光やレジャーの誘致

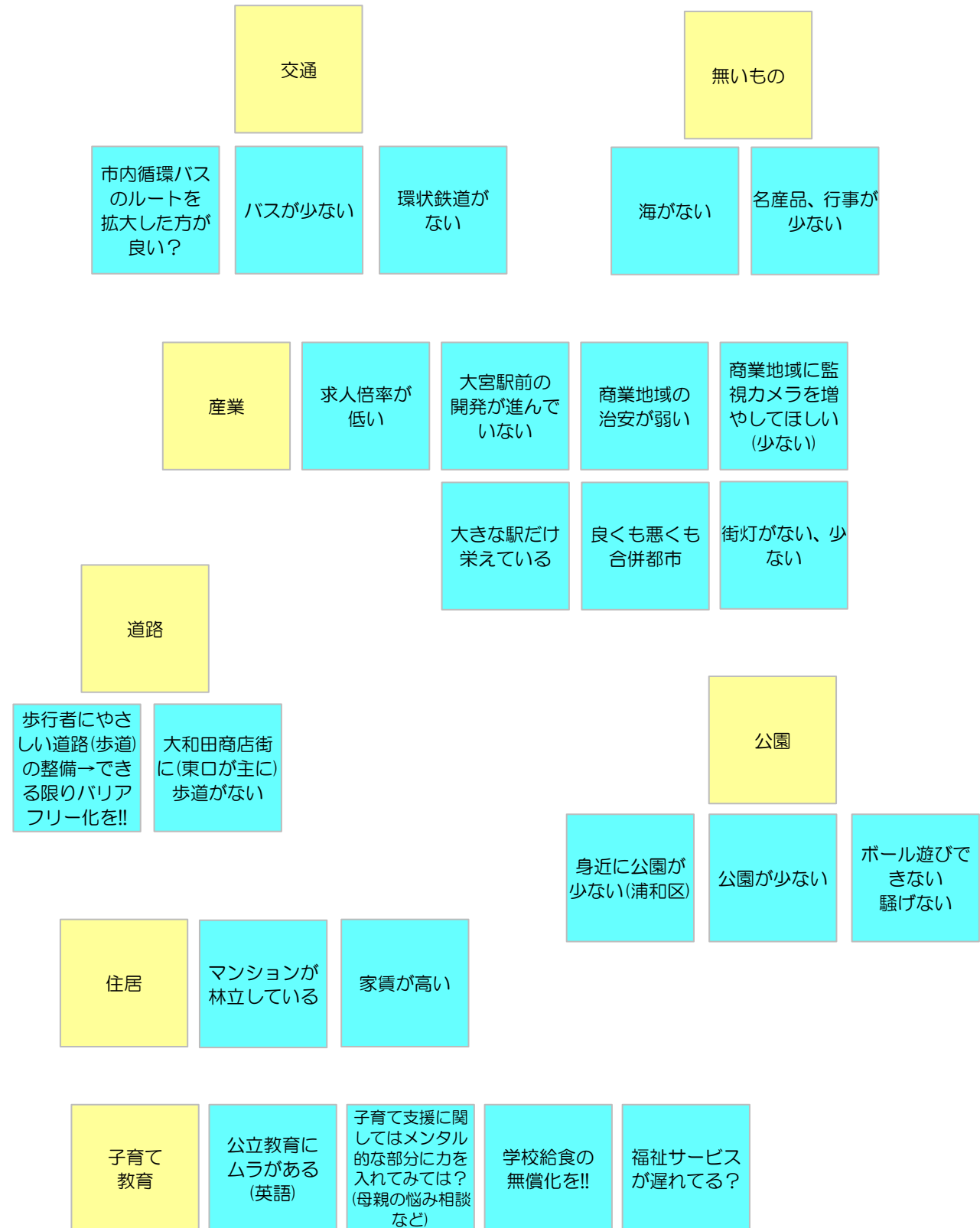
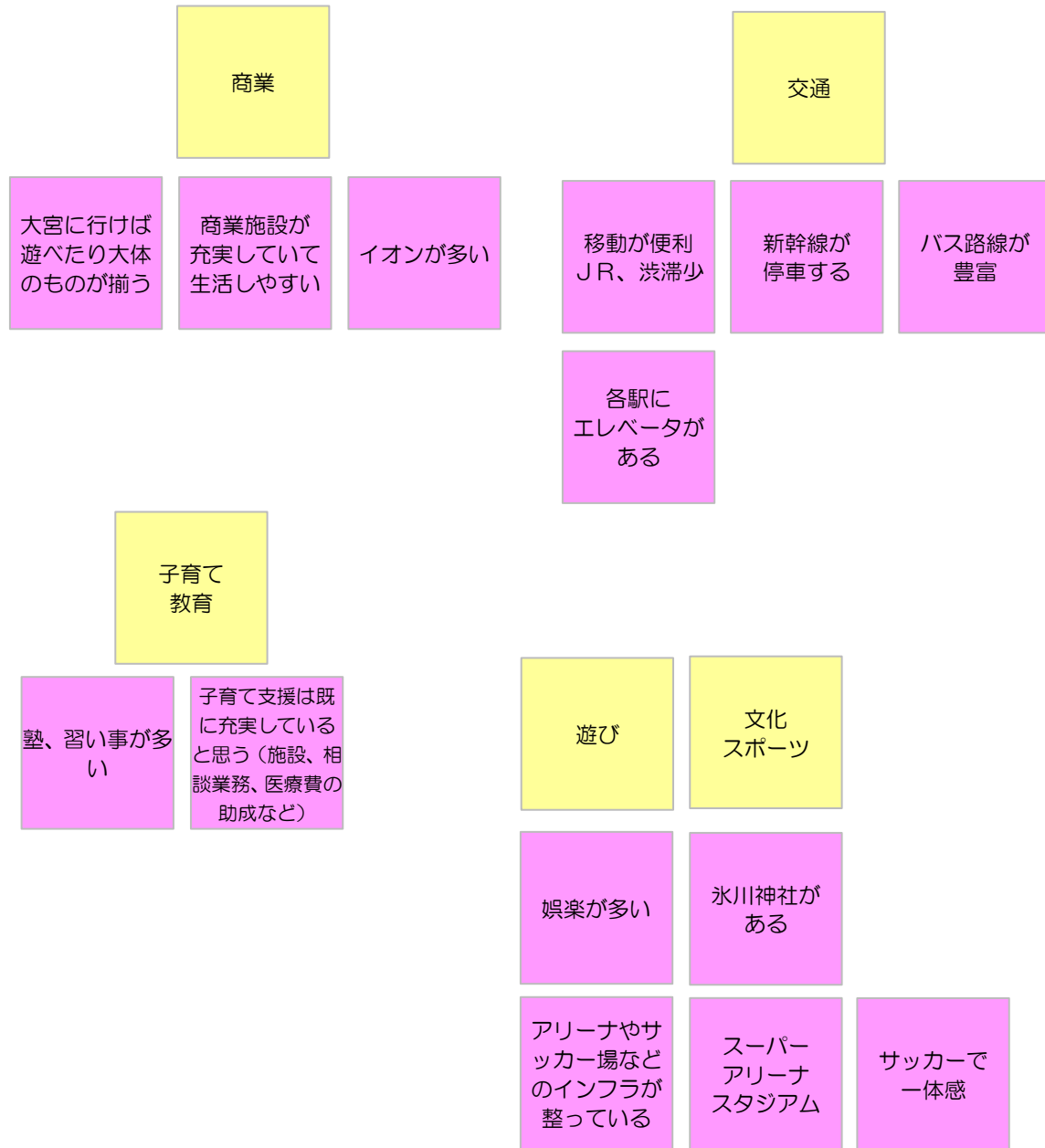
《一人一人にできること》

限りある税金を無駄なく使うことに目を向けたり、インターネットを使った行政への参加、地域とのふれあい活動への参加をする。また、普段からのあいさつ、コミュニケーションが大切で、これが安全な街づくりにもつながる。

グループ5の意見発表（テーマ1）

さいたま市の良いところ・改善が必要なところ

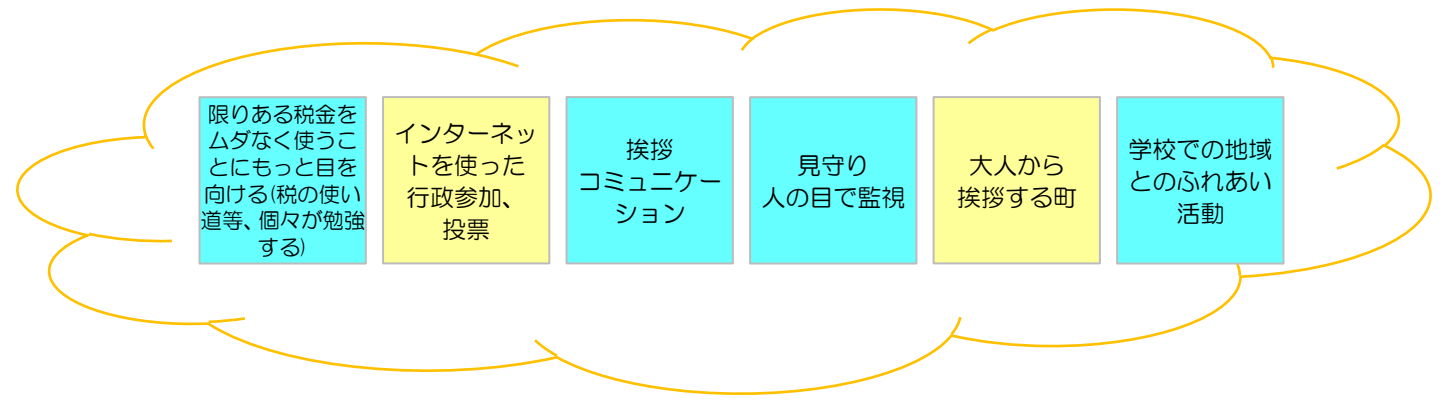
ピンク=良いところ
ブルー=改善が必要なところ



グループ5の意見発表（テーマ2・3）

◎にぎやかな街☆人が来たくなる街◎

魅力的なふるさと納税+減税	大宮東口に公営カジノを建設	公の銀行を設立 中小企業を支援 都銀行を 反面教師に	インドタウンを作る	第2のUSJの誘致
他県のアンテナショップ誘致	新しい若者向けまちづくり 大型店、チェーン店の少ない良い雰囲気のみち	大型店以外のこだわりの店がある	都内にあるお店をさいたま市にも	
独自の祭りの検討開催	地酒税の新設	温泉地を作る 入湯税収	ホテル税の設定	



◎一人一人の子どもに合った教育ができる街

幼保→小学校との連携 <small>教育格差のないまち 幼保によって方針や教育理念が多様化しており、小学入学の時点で、既に格差が生じている</small>	公開学習 PC活用 小1～中3	少人数クラス	さいたま市に偏差値の低めの高校を増やしてほしい
小学生、幼稚園児向けイベント活性化	「さいたま市の給食栄養豊富でおいしいですよ」それだけでも十分『子育てしやすいまち』のアピールになると思う	特徴ある高校づくり スポーツ	

2030年のさいたま市を
どういうまちにしたいか!

◎東京に依存しない街◎

全国に認知されるさいたま市の名物やモニュメントの作成(イメージ化)	環状鉄道(リニア)の建設 <small>(大宮-美園-東浦和-一環-戸田-西浦和)</small>	様々な企業を誘致する(都市化)
観光、集客ができるコンテンツレジャー施設の誘致(都市化)	法人税収増 住民税低	

◎人に優しい街◎
(心のバリアフリー)

バリアフリーを含めた障害を持つ人に優しい町	高齢になっても住みよい	歩行者に優しい	
デイサービスの施設を増やす	母子・父子家庭に優しい町 夜遅くまで預けられるとか？ 病児保育を増やす！	空いている建物に条件を付けて住める	親だけのコミュニケーションの場 情報交換ができ、且つ子供を預けられるカフェやレストラン
金銭面、メンタル面でも安心して子育てできる 学費、給食含む	大家族体験	2世帯住宅の推進(税金...)	障害を持った人が働きやすい
パパママカード活用して生活 対応店や対象が少ない	子どもに色々な体験をさせる！ ふれあい 高齢者、障害者外国人	小児科や婦人科が少ない	公園 広場 自由に遊べる ところ
	市内(区内でもいい)のでどこでも100円でいける循環バス(コミュニティバス)を走らせてほしい	道路の整備をまんべんなくしてほしい	

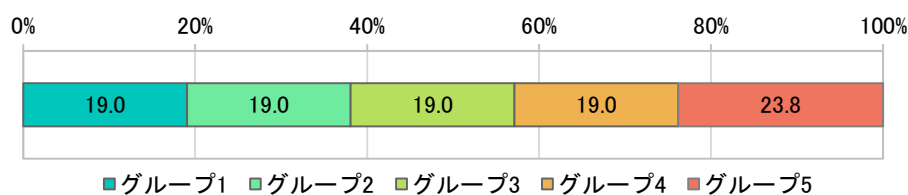
4. 参加者アンケートの結果

■調査対象 総合振興計画市民ワークショップ参加者 21 人

■回収数（率） 21 人（100%）

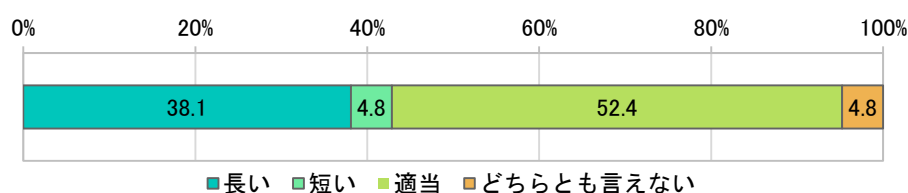
■調査結果

1 グループ名（あてはまるもの1つに○をしてください）

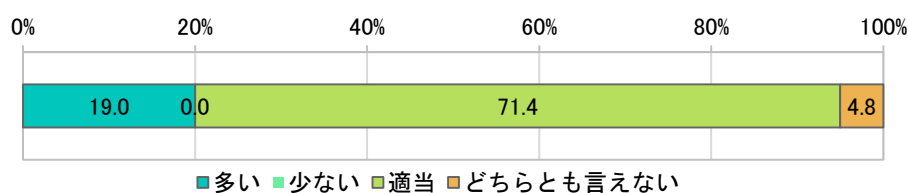


2 市民ワークショップの運営について（あてはまるもの1つに○をしてください）

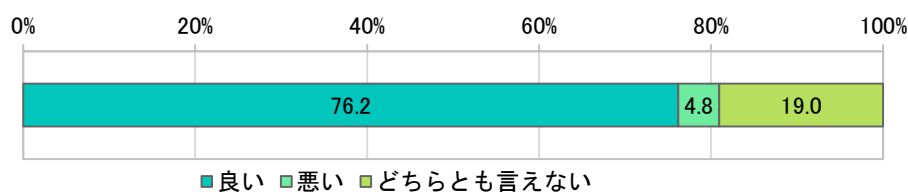
（1）開催時間（6時間半）



（2）1グループの人数



（3）グループワークの進め方



【理由】

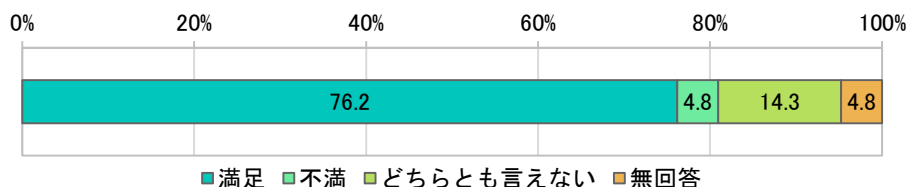
(良い)

- どんな話をするか分かりやすかった
- 不慣れななか、サポートいただいたため
- 進行役の方が筋道を立てて進めてくださったので、同じ方向に意見がまとまったのではないかと思います
- 4人のグループでしたが、特に問題なかった
- タイトルが明確
- 自分から意見が出なくても、周りの意見からひらめくことが多かった
- まんべんなく意見が言えていた
- 段取りよく進んだと感じた
- 一人一人に話を振って、発言しやすい雰囲気を作ってくれた

(悪い)

- 自分の意見と違う人とグループになってグループ意見をまとめろと言われても無理(どちらとも言えない)
- 最後の落としどころがまとめにくかった
- 意見の共有、集約は出来たが、結論を出しづらかった
- もう少し端的でも良いかと

(4) 全体の満足度



【理由】

(満足)

- 興味があることが話せたので良かった
- 普段会うことのない人との交流が図れたこと
- 医療、子育て、防災など、様々な職種の方々の意見を聞くことが出来た
- 考えていることは皆さん似た様な内容だったため
- なかなか自分の市について話し合うことが出来ないのも、とてもいい機会でした
- いろんなグループから様々な意見が出て、参考になったり勉強になった
- 一人一人の意見が聞ける貴重な体験ができた
- まとめが難しかったが、概ね満足でした
- 自分たちが住む街について考える良い機会となったため
- さいたま市に対するイメージが良くなった
- 普段聞けない話が多く出て刺激的でした

(不満)

- 長い時間をかけても自分の意見がどれだけ行政に届いているかとても疑問に思います

(どちらとも言えない)

- 行政の関与が運営のみで残念だった

3 講演について、印象に残ったことをお書きください。

- 小さな活動も続けることで、大きな影響、動きにつながるがあると再認識しました。
- 誰でも自分のまわりから、まちづくりができる。
- 「街づくり」というと難しい印象だったが、日々できることからやればいいと分かったのも収穫であったと思う。
- 自らの活動が活かされることがあることが分かったこと。
- 今回、浦和区の活性化の根本的な目的が、「自分たちが楽しむために」ということだったことを知り、必ずしも街を豊かにしよう、活性化しようといった義務感のもと、動き出す必要はないのではないかと感じました。
- 仕事以外で、さいたま市に関することで活動されている人がいて、よりよい生活ができると思いました。
- 市内で行われている様々なイベントの裏側で、まちづくりとして活動している人がいることを知れて良かった。
- 越智田さん、坂口さん共に、さいたま市を心から愛している？のだなぁと感じました。未来に向けた街づくりのために、一人ひとりができること、まずはさいたま市のことをもっとよく知ることから始めたらいいのかな、と思いました。
- 越智田さんは、人と人とのつながりを大事にして、まちが盛り上がるよう色々とされていて素晴らしいと思った。
- 若い人が色々と考えておられるようで、頼もしく感じた。
- 越智田氏の考え方と当方の考え方が似ておりました。
- 越智田さんの講演に賛同できる内容がいくつかあったことを嬉しく思います。もっとこれからも頑張ってもらいたいと思いました。
- 今まで知らなかったこと、他人に話したいこと、縁のないことが聞けて良かった。一人一人の思いが結びついたイベント開催が、もっとさいたま市全域で広まればと思う。
- 越智田さんの講演で、戸田市の方が子育てが充実しているので、私なら引越す。
- さいたま市の商店街は、若い世代についていけない事態を知ってびっくりした。
- さいたま市のいいところは、帰ってきてホッとするとところなんだなぁと改めて思いました。
- 会社勤めの方や主婦の方の話を聞いて、子育てへの理解が深まった。
- さいたま市のアプリはすごく画期的な情報交換の手段になると思った。ぜひ作っていただきたいです!!
- 色々な方の意見が聞けて良かった。
- 大宮駅の開発計画。

- 仲町小出身だが、20年前は1学年3クラスが一般的な数であったが、現在は6クラスあると聞いて驚いた。文教都市というのは全国的に有名なのだと感じた。

4 市民ワークショップに参加しての新たな発見など、自由にお書きください。

- 参加する前は、どんな話をすれば良いか不安でしたが、来てみて、いろいろな人の話が聞けたのが、良かったと思います。
- インターネット等、情報を得るのが簡単になりましたが、実際に会って話をするのも大切だと思いました。
- 同じような意見もあれば、思いもつかない意見もあり、新たな視点が見つかりました。
- 社会人の方々のさいたま市への思いを直接聞くことが出来て、視野が広がり、有意義な時間となりました。住んでいる地域、最寄駅がさいたま市の都市部から離れているせいか、都市部に住んでいる方の悩みや、便利な部分を知ることができ、とても新鮮でした。
- 小さい子供がいるので、どうしても子育てに関する改善への思いが強かったが、今後さいたま市がどうあるべきかで、一つ意見が出ると、更に意見が出てくるので楽しかった。
- 高齢者と子供の交流の場があったらよいか、趣味が生かせるまちとか、お祭りがもっとあってもよいのでは、住みたいまち、住み続けられるまちにするために、こうやって一緒に考える時間が大事と思いました。
- 自分と同じ考えの人もいれば、全く違う人もおり、話し合いの難しさが学べた。
- さいたま市について、初めてこんなに時間を使って考えることが出来、皆さんが思うさいたま市と自分の思うさいたま市とで、同じものや、そういう考えもあるんだと新しい気付きがあった。子育てをしたことがないため、子育ての目線で考えたことがなかったが、東京都と同じような問題を抱えているのだと知った。自分の置かれた環境で視点も変わるため、世代や業種を超えての、このようなWSは必要だと思った。
- 積極的な意見交換が良かったです。
- 日々の生活に追われていると、なかなか市について考える機会も時間もなくて過ぎて行ってしまいましたが、改めて時間をとって考え、このような場で発表することにより、自分の意識も変わったと思うし、市へ意見ができることが貴重なことだと思う。もっとこのような場が増えると良いなと思いました。違う年代、独身の方とお話しできたのも貴重な体験でした。
- 同じ子育て世代の方の悩みや意見、とても参考になりました。
- まちづくりのため、未来のまちのため、どんなことが大切になってゆくのか考える良い機会となりました。また次回参加できるのを楽しみにしています。
- 思ったよりも、自分の職業では当たり前なのが、一般の方からは全く伝わらないことを実感できた。
- 自分が感じていたさいたま市の良いところ、悪いところが他の人とは違うんだって思い、すごくいい機会でした。
- 田んぼと都市の風景や、教育がしやすいなど、さいたま市の良いところを見つけるきっかけとなった。自分が住む街を考える機会のはめったにないと思うので、今後も開催されてい

くと良いと思う。

- 今回、私は45歳での参加、、、おそらく最年長だと思いますが、若い人たちの意見をいろいろと聞いて、意見交換ができたことは、これから、さいたま市民として暮らしていく中で、参考になることが多かったです。また、こういう機会があれば、今度はシニア世代？の仲間入りでもよいので、ぜひ参加したいと思います。
- こういったワークショップを、回数を増やしたり、身近な場で取り上げてほしい。
- 年齢、性別が様々であれば注目する点も様々だと改めて感じました。地域、市政、経済・産業、医療、教育、環境、子育て、全てを考えるのは範囲が広すぎると思います。もっと的を絞った（教育のみとか）ワークショップにした方が有益なものになると思います。今日参加した感じでは、一人一人の意見がバラバラすぎて、この中から何か取り入れられるとは思えません。残念です。
- さいたま市の魅力に気が付きました。
- 教育、育児、安全の要望が高いこと。
- 市が様々な取組をしていることを知った。
- 将来のビジョンをこれからも意識して生活したい。
- すぐできそうなことから、長年かかるものまでありますが、とても希望のある街、理想的な街だと想います。
- 様々な職業や生活環境からみたさいたま市が、もっと住みやすくなってほしいと思う。
- 今回のワークショップを機に、さいたまが他の市や区から憧れたり、真似したくなる町（1グループさんが言っていたような）になるといいなという発見がありました。
- ぜひ、さいたま市のアプリは作っていただきたいです！
- さいたま市のアプリを待っています。